

21 年間、待ち望んでいました新垣幸子さんの偉業が評価され、この度、人間国宝に認定されました。皆様と共に心からお祝い申し上げます。

私の染と織との作品コレクションは、2003 年 6 月、東京銀座・和光で開催された新垣幸子氏の「第 2 回個展」での邂逅から始まった。展示作品は、八重山上布の伝統的なイメージを塗り替えるような鮮やかな色使いと、革新的で精微な織りによって構成されていた。それらは、八重山の歴史と風土から生まれた上布だと感銘を受けた。その後、石垣に帰郷の折、新垣氏の工房を訪れ見本帳を見せていただき、その際作品のすべてが県外に渡っている現状を知り、これらの作品が、石垣市立八重山博物館に収蔵されるべきだと痛感した。これが私の沖縄の染織作品コレクションの契機となり、新垣氏の作品 26 点（着物 14 展、帯 7 点、暖簾他 5 点）をはじめ、全作品 116 点のコレクション内容及び寄贈の詳細を紹介させていただきたい。

2019 年 1 月、芹澤銈介氏（1956 年人間国宝認定）の代表作「いろは文六曲屏風」、城間榮喜氏の紅型額装 4 点、国吉清尚氏の陶器 25 点を、石垣市立八重山博物館へ寄贈した。同年 5 月、「国吉清尚没後 20 年回顧展」開催の折、教育長や学芸員から石垣市名誉市民である玉那覇有公氏の紅型作品の寄贈を依頼された。玉那覇氏は 60 歳の若さで 1996 年人間国宝に認定され、作品は文化庁から 2 度の買い上げを受け、東京国立近代美術館などに収蔵されている。その繊細で緻密な両面染めなど、多様な技術で構成されたオリジナル作品に圧倒され、唯一無二の紅型作家であると確信し、最高傑作とされる両面染め 3 点を含む 46 点（着物 23 点、帯 20 点、他 3 点）の作品を入手することができた。その後、八重山との深いつながりを持つ鎌倉芳太郎氏、城間榮喜氏、藤村玲子氏の作品に焦点を当て、さらに人間国宝の織作家 4 名の作品にも範囲を広げた。

城間榮喜氏は、13 歳から 20 歳までの 7 年間を石垣で過ごし、大変困難な生活を経験された。その後、城間氏は戦後の紅型復興に尽力し、その中心的な人物となった。城間氏の作品をなんとしても入手したい思いが強く、幸運にも舞台幕、振袖を含む 10 点の作品を入手することができた。特に高額であった舞台幕は、「二度と出会うことのできない作品で、他の作品を断念してでも」と、一般財団法人沖縄美ら島財団の花城良廣前理事長から強く勧められ、まさに奇跡的な出逢いであると感謝し入手することとした。併せて玉那覇家の家宝とされる両面染め 2 点は、当初入手することは困難で、御子息の有勝氏が、父の故郷である八重山博物館に収蔵される意義を強調され、御両親を 2 年かけて説得されたお陰で入手することができた。先の舞台幕と両面染めは、石垣市立八重山博物館・美術館の至宝となることを確信している。

琉球の歴史・文化・芸術に関する膨大な研究成果を遺した鎌倉芳太郎氏（1973 年人間国宝認定）は、石垣市の初代名誉市民である。鎌倉氏は昭和 50 年から 57 年にかけて、八重山蔵元絵師画稿及び御絵図などの美術工芸資料を石垣市立八重山博物館に寄贈した。

後に重要文化財に認定された「八重山蔵元絵師図画稿類」には、祭祀儀礼や貢納布作りをする人々、そして異国人などが生き生きと描かれており、八重山の風俗や民俗を知る貴重な財産である。その鎌倉氏の型絵染帯5点を入手することができた。

八重山との深い関わりを持つ藤村玲子氏の作品については、踊り衣裳含む着物3点帯2点を入手することができた。ノンフィクション作家澤地久枝氏の著書『琉球布紀行』の中で、「彼女の紅型作品は、百年の時間を経ても色褪せることはないのではないか」と絶賛している。

人間国宝の織作家の作品については、芭蕉布の平良敏子氏の作品12点（着物6点、帯6点）、首里の織物の宮平初子氏の作品4点（着物3点、帯1点）、読谷山花織の與那嶺貞氏の作品（帯1点）を入手することにした。

2023年7月、首里の織物の祝嶺恭子氏が人間国宝に認定された。作品は伝統と創造に満ち、その洗練された色彩感覚と斬新さは、従来の沖縄染織に新たな息吹をもたらしている。祝嶺染織研究所を訪ね、ベルリン資料再現作品を含む5点を入手することができた。その他にも、与那国花織などを含む4点の作品を入手した。

本展示会で、7名の人間国宝と、2名の県指定無形文化財に認定された作家を一堂に展示出来ることは、感慨深いものがある。

21年に及ぶ沖縄の染織コレクションを通じて再認識したことは、沖縄が昔も今も変わらず、染織王国である。更なる沖縄の染織の活性化と染織文化を世界に発信するためにも、玉那覇氏、祝嶺氏、新垣氏の御三方に続く人間国宝を期待している。

以上、全作品119点は、八重山との関わりが深い作家を中心にコレクションしたものである。これらは石垣市へ寄贈し、新石垣市立八重山博物館・美術館の早期実現を切望している。新館が現代沖縄の染と織の宝庫となるよう、コレクションを続けていきたいと思っている。

本展示会主催の石垣市・石垣市教育委員会、共催を賜りました一般財団法人沖縄美ら島財団、ご後援をいただきました関係機関、各界の専門家の皆様へ、心より厚くお礼を申し上げます。